

イエスよ、わが喜び (BWV227)

リリンク指揮「バッハノモテト全集」(COCO-7479~80) 解説：樋口隆一（[]内は萩野の注）

ヨハン・フランクの作詞〔旋律ヨハン・クリューガー作、「マタイ受難曲」の"Herzliebster Jesu"の旋律の作者〕によるコラール「イエスよ、わが喜び」（1650）の6つの節を核に、新約聖書、ローマの信徒への手紙〔以下「ローマ書」と略〕、第8章からの章句を歌詞とした他声楽曲で注釈を加えるという構成を取る5声のモテトは、バッハがライプツィヒのトマス・カントルに着任して間もない1723年7月18日に取り行われたライプツィヒの郵便局長夫人、ヨハンナ・マリア・ケース（旧姓ラッポルト）の埋葬式のために書かれたという説もあるが、確証はない。オリジナルな資料は失われており、1735年頃に書かれたと思われる筆者総譜が最も古い。したがって成立はそれ以前であることは確かである。シンメトリカルな構想を持つ全11曲の中心をなす第6曲には、5声のフーガが置かれている。

「イエスよ、わが喜び」と歌うコラールの第1節は、長大なモテトの標題をなす。イエスとともに生きるものは「罪に定められることはありません」と歌う第2曲の強い表出は、「いかなる（罪に定められることは）ない」を意味する"nichts"の反復による圧倒的な効果がもたらすものだ。「肉に従って進むのではなく」の「進む」を意味する"wandeln"に与えられた長い音型による強調も効果的だ。

同じコラールでも、第3曲「あなたの加護のもと」では、「サタン」「敵」「雷」「稲妻」といった言葉にふさわしい音型による修飾がみごとである。

「霊の法則」を歌う第4曲は、ソプラノ2声とアルトによる3声によって、「霊」のイメージが巧みに描かれる。「竜よ、死の淵よ、恐怖よ」と叫ぶコラール第3節を歌う第5曲に続いて、「肉ではなく霊の支配下に」と歌う第6曲の二重フーガは、すでに述べたように全曲の中核にあたり、モテトの中心的な精神が述べられる。

第7曲のコラール（第4節）は、「すべての宝よ去れ」とキリスト者の決意が表明されるが、ここでも「苦しみ」「艱難」「十字架」等のイメージが、〈ため息〉の音型によって描かれる。

「霊は義によって命となる」と歌う第8曲は、第4曲とシンメトリーをなす3声曲だが、ここではアルト、テノール、バスの3声部による。「罪によって死んでいる体」と「義によって命となる<霊>」という相反するイメージの対照がみごとに表現されている。

続く第9曲は4声だが、通奏低音とバスを欠いた上4声によって、この世からあの世への移行が美しく表現される。「自堕落な生活」というフガートがアクセントをなす。歌詞はコラールの第5節だが、コラール旋律はアルトによって定旋律として示される。

第10曲の音楽は第2曲のそれと共通であり、第11曲のコラール（第6節）も第1曲と同じだから、全体のシンメトリーは鮮明に示され、どんな苦しみにあっても、「イエスよ、あなたはわが喜びであってください」と歌いながら、壮大なモテトが完結する。

歌詞対訳

（樋口隆一氏の訳を、より原語に添うように手直ししました。）

1.Choral-1

Jesu, meine Freude,
meines Herzens Weide,
Jesu, meine Zier,
Ach wie lang, ach, lange
ist dem Herzen bange,
und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
außer dir soll mir auf Erden

第1曲：コラール第1節

イエスよ、私の喜び、
私の心の牧場、
イエスよ、私の誉れ、
ああ、どんなに長く、どんなに長く
不安な心で
あなたを求めたことか。
神の小羊、わが花婿、
あなた以外では私にとってこの世には

nichts sonst Liebbers werden.

2.Römer 8.1

Es ist nun nichts Verdammliches
an denen, die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische wandeln,
sondern nach dem Geist.

3.Choral-2

Unter deinem Schirmen
bin ich vor den Stürmen
aller Feinde frei.
Laß den Satan wittern,
laß den Feind erbittern,
mir steht Jesus bei!
Ob es itzt gleich kracht und blitzt,
ob gleich Sünd und Hölle schrecken:
Jesus will mich decken.

4.Römer 8.2

Denn das Gesetz des Geistes,
der da lebendig machet in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht von dem Gesetz
der Sünde und des Todes.

5.Choral-3

Trotz dem alten Drachen,
Trotz des Todes Rachen,
Trotz der Furcht darzu!
Tobe, Welt, und springe;
ich steh hier und singe
in gar sichrer Ruh!
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muß verstummen,
ob sie noch so brummen.

6.Römer 8.9

Ihr aber seid nicht fleischlich,
sondern geistlich,
so anders Gottes Geist in euch wohnt.
Wer aber Christi Geist nicht hat,
der ist nicht sein.

7.Choral-4

Weg mit allen Schätzen,
du bist mein Ergötzen,

愛しい方はいないだろう。

第2曲：ロマ書 8.1

今や罪に定められることはない。
救い主イエスの内に居る者は。
彼らは肉ではなく、
霊にしたがって進むからだ。

第3曲：コラール第2節

あなたのご加護のもと
私はあらゆる敵の襲撃から
免れる。
サタンが荒れ狂おうとも
敵が猛り立つとも
私の側にはイエスがいらっしやる。
たとえ雷が鳴り稲妻が走り、
罪と地獄が脅かそうとも、
イエスは私を庇ってくださる。

第4曲：ロマ書 8.2

救い主イエスに命をもたらす霊の法則が、
罪と死の法則から私を解放したからだ。

第5曲：コラール第3節

古い伝説の竜よ、
死の淵よ、
そして恐怖よ、来るなら来い。
荒れ狂え、この世よ、砕け散れ、
私はここに立って歌う。
全く揺るぎない安らぎの中で。
神の御力は私を顧みられる。
現世も地獄も黙らざるをえない。
たとえ今は猛り狂うとも。

第6曲：ロマ書 8.9

あなたがたは肉ではなく
霊の支配下にいる。
神の霊があなたがたの内に宿っている限りは。
しかしキリストの霊を持たない者は、
キリスト者ではない。

第7曲：コラール第4節

すべての宝よ、去れ。
あなた（イエス）は私の楽しみ、

Jesu, meine Lust!
Weg, ihr eitlen Ehren,
ich mag euch nicht hören,
bleibt mir unbewußt!
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
soll mich, ob ich viel muß leiden,
nicht von Jesu scheiden.

8.Römer 8.10

So aber Christus in euch ist,
so ist der Leib zwar tot um der Sünde willen;
der Geist aber ist das Leben
um der Gerechtigkeit willen.

9.Choral-5

Gute Nacht, o Wesen,
das die Welt erlesen,
mir gefällt du nicht!
Gute Nacht, ihr Sünden,
bleibet weit dahinten,
kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
gute Nacht gegeben.

10.Römer 8.11

So nun der Geist des, der Jesum von den Toten
auferwekket hat, in euch wohnt,
so wird auch derselbige,
der Christum von den Toten auferwekket hat,
eure sterbliche Leiber lebendig machen

um des willen, daß sein Geist in euch wohnt.

11.Choral-6

Weicht, ihr Trauergeister,
denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
muß auch ihr Betrübten
lauter Zukker sein!
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.

* 下線部：旧全集版では"Wonne"「至福」、J. フランクの原詩では"Freude"「喜び」

イエスよ、私の生きる喜び。
むなしい名誉よ、去れ。
おまえの言うことなど聞くまい。
おまえのことは知らずにいさせてくれ。
悲惨、困難、十字架、屈辱と死に、
どれほど苦しもうとも、
私をイエスから引き離すことはできない。

第8曲：ロマ書 8.10

しかし救い主があなたがたの内におられるなら、
体は罪によって死んでも、
霊は義によって命となる。

第9曲：コラール第5節

さらば、生き様、
この世が選んだ生き様よ、
おまえは私の気を引くことはない。
さらば、罪よ、
離れたままでとどまれ。
日の目をみることはないように。
さらば、尊大と虚飾よ。
自堕落な生活よ、おまえには、
永遠の別れを言い渡そう。

第10曲：ロマ書 8.11

もしイエスを死者の中から復活させた方の霊が、
あなたがたの内に宿るなら、
同様に、
救い主を死者の中から復活させた方は、
あなたがたの死ぬべき体も
生かしてくださるだろう。
あなたがたの内に宿るその霊によって。

第11曲：コラール第6節

退け、悲しみの霊ども、
私の喜びの主、
イエスがお入りくださるのだから。
神を慕う者には、
悲しみもまた
砂糖のような甘いものとなるだろう。
たとえ私がここで嘲りと辱めを受けても、
その苦しみの中であなたはとどまりたまえ。
イエスよ、私の喜びとして。

萩野の考察

ご紹介したように、コラールの最初と最後が"Jesu, meine Freude"という言葉で枠組まれています。また

対称構造に寄与している曲には、以下のような関係があります。

- ・第2曲と第10曲の多旋律主題は、中心となる第6曲主題と類似しており、その旋律の元はコラール第1行の旋律の転回形（音の上下関係を入れ替えた形）に由来している。
- ・どちらも3声で歌われる第4曲と第8曲の出だしの主題が類似しているのも決して偶然ではない。この曲は「マタイ受難曲」と共に日本の合唱愛好者に人気がありますが、その原因を考えてみると、「マタイ受難曲」と以下のような共通点があります。
- ・どちらもホ短調で始まる。
- ・コラールが曲の骨格をなしている。更にそのコラール旋律作者が、「マタイ受難曲」でも重要な役割を果たす"Herzliebster Jesu"の旋律作者である。
- ・どちらも編成と曲想が非常に変化に富んでいる。
- ・第8曲の出だしの旋律とリズムが、「マタイ受難曲」第65曲"Mache dich..."と類似している。
- ・第9曲の"Gute Nacht..."の歌詞が、「マタイ受難曲」第67曲の合唱部分"Mein Jesu, gute Nacht"を連想させる。

練習が進むに連れ、更に色々なことがわかるかもしれません。順次お知らせします。

1997.2.21

コラールの構造

第1節（1番） 下線は脚韻構造を示す。

音節数		旋律
第1行・6	Jesu, meine Freude,	A
第2行・6	meines Herzens <u>Weide</u> ,	B
第3行・5	Jesu, meine <u>Zier</u> ,	C
第4行・6	Ach wie lang, ach <u>lange</u>	A
第5行・6	ist dem Herzen <u>ban</u> ge	B
第6行・5	und verlangt nach <u>dir</u> !	C
第7行・7	Gottes Lamm, mein <u>Bräutigam</u> ,	A'
第8行・8	außer dir soll mir auf <u>Erden</u>	B'
第9行・6	nichts sonst Lieb <u>ers</u> werden.	A

第2節（2番）

以下同様